

派遣先所属 放射線医学県民健康管理センター 氏名 栗原 正夫
派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故によって放射性ヨウ素が放出されました。この放射性ヨウ素の内部被ばくによる健康被害として、小児の甲状腺がんが発生する可能性が、チェルノブイリ原発事故で明らかになっています。

そのため、福島県では震災当時 18 歳以下の全県民約 36 万人を対象に平成 23 年度から 25 年度までに甲状腺の超音波検査（**先行検査**）を実施し、約 30 万人が検査を受けました。福島県が 2014.8.24 に公表したデータによると、**二次検査（精密検査）**を受けた 104 人の方が甲状腺癌やその疑いと診断され、県は「被曝の影響は考えにくい」としています。

この事に関して国連科学委員会は、プレスリリース 14-023-J 2014.4.2 において、「福島での被ばくによるがんの増加は予想されない」「最も高い被ばく線量を受けた小児の集団では甲状腺がんの低いリスクがある」と報告しています。

2014.11.11 に開かれた福島県甲状腺検査評価部会では、治療しなくてもよい癌を見つける「過剰診断」ではないかとの意見もあり、この様な事をふまえ、今後甲状腺検査をどのように行って行くかを検討する事が、必要になっています。

この甲状腺の超音波検査は一回だけで終わるのではなく、平成 26 年度からは**本格検査**が始まりました。本格検査とは、20 歳までは 2 年おき、それ以降は 5 年おきに、長期にわたり全県民の子供を対象に、甲状腺の超音波検査を継続するものです。

平成 23 年度～ 平成 25 年度	先行 検査	一次検査(スクリーング検査) は福島県内では福島県立医大が、公共施設や小中学校等に出張し検査、県外避難者には全都道府県約 80 の医療施設（以下：病院）が協力し実施した。必要に応じて福島県立医大等で 二次検査(精密検査) を実施した。
平成 26 年度 ～長期継続	本格 検査	一次検査 を 20 歳までは 2 年おき、それ以降は 5 年おきに実施。福島県内は福島県立医大と 10 の県内の病院が協力し実施。県外は全都道府県約 92 の病院が協力しています。 二次検査 は福島県立医大と県内 3、全国 20 の病院で実施。

私は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、甲状腺検査室技師・看護師チームに所属して、福島県外に避難または居住している約 2 万人の、全国 92 の病院から送られてくる、甲状腺超音波検査データ各種の整理を担当しています。平成 26 年度からは新たに福島県内の病院からくる検査データの整理も担当する事になり

ました。

この業務には福島県や福島県立医科大学の職員を始めとして、新潟県、群馬県、長野県から派遣された職員が協力し、一丸となって業務を進めています。

北海道から沖縄県まで全国に避難等している福島県の子供たちの甲状腺検査は県外92の病院で実施していますが、検査は完全予約制のため当時居住していた市町村の協力を得て対象者の避難等先住所を確認し検査同意書を返送してもらい、県外の病院と人数、日時等を調整し検査を実施するのが大変な作業です。

今後、就職や進学で福島県外に居住地を移す子供も増えると予想され、住所を変更した対象者の把握が難しくなると思われます。

2014.10月現在、福島県から全国46都道府県に大人と子供46,416人が避難しており、一番多い東京都の6,235人に次いで二番目に5,009人が埼玉県に避難しています。東京都では10ヶ所の病院が甲状腺超音波検査に協力を頂いていますが、埼玉県には1ヶ所しかなく、受診者が埼玉県外の遠くまで行かなくても済むよう協力病院を増やすことが課題であると考えています。

一次検査でより詳しい検査が必要と判断されると二次検査を受診していただき、診断を確定する事になります。当初、二次検査は福島県内でしか行っていなかったため、遠い避難先からわざわざ福島まで来る必要があったのですが、2013年11月から徐々に福島県外でも二次検査が受けられるようになり、現在は全国20ヶ所で受診可能で、状況は以前より良くなって来ています。

福島県は埼玉県より広い為、全県の公共施設、学校への出張検査では午前7時位に出発し、検診を終了して帰るのは午後6時から7時位になります。それからかたづけ、翌日の出張検査の準備などです。毎日この様な朝早くから夜遅くまで頑張っている職員の姿があります。

世界的に見ても前例のない「18歳以下の県民全員の甲状腺検査」を長期間行うという大変な仕事ですが、臨床検査技師としてこのような仕事で東日本大震災復興支援に従事する機会を与えられたことに感謝しています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

私の住んでいる福島市内では、東日本大震災に伴う主な被害が目に見えない放射能汚染です。私の住んでいる所も除染がおこなわれ、家のすぐ隣にある幼稚園のモニタリングポストの値も約0.13 μ Sv/hと以前より低くなっています。(2014.11月現在)来月には住んでいる家の放射線量モニタリング調査が行われる予定です。

普段の生活では特に不安を感じることはありません。こちらで暮らしていて印象に残った事と福島の写真をいくつか紹介します。

○ 私が住んでいたさいたま市と比べて、交通渋滞がほとんどありません。

- 福島駅前に 30 分無料の駐車場あり、無料の駐輪場もたくさんあり便利です。
- 水道水が川の水を使っているのに、何故か夏冷たくておいしいです。
- 福島市の複合公共施設の名前が、「**A・O・Z (アオウゼ)**」
福島交通のプリペイドカードの名前は、「**NORUCA (ノルカ)**」
福島市内 100 円バスの名前は、福島名産の桃とリンゴで「**ももりんバス**」
など名前がおもしろいです。
- 福島市内は盆地で夏暑いと地元の人言うけど、さいたま市より夜は涼しいです。
- 春は桃、桜など色々な花が見られ、秋は紅葉がきれい。温泉もたくさんあります。



福島市飯野町の「つるし雛祭り」です。商店街の各お店が手作りの雛をかざり、自由に見学できます。地元の小学生の作品も見られます。



福島市内を流れる阿武隈川からの安達太良山の眺めです。冬には白鳥が飛来します。他にも吾妻山が市内のどこからでも見られます。